

第6 個別事業の基本計画及び内容

(唐津キャッスルベイ(東港地区、西ノ浜地区)のブランディング事業)

1 地域振興計画に基づく個別事業の基本計画及び内容

(1) 事業の必要性

重要港湾である唐津港は、唐津市中心部から約2kmと非常に近く、また近隣にJR西唐津駅があり、唐津市のまちなかへのアクセスをはじめ、高い利便性を有している。

また、唐津城を望み、キャッスルベイと呼ばれる唐津湾に沿ってゆるやかなカーブを描く長大な白い砂浜と日本三大松原と謳われる特別名勝、虹の松原などすばらしい景観と自然環境を有しており、それらを活用し、人流拠点となるよう整備を進めている。

東港地区では松原の復元を目指した緑地整備が平成7年度から事業化されたことに続き、平成12年にはフェリーふ頭整備に着手した。平成19年4月に唐津～壱岐フェリーが就航したことを契機に唐津フェリーターミナル及び緑地周辺は「みなとオアシスからつ」として国土交通省から認定・登録(平成19年4月25日)された。これを受け、住民や観光客が憩い、賑わう空間を目指した各種イベントも開催されている。

また、フェリーターミナルと隣接して、水深9m岸壁(耐震)が平成28年4月から供用開始し、平成30年には、佐賀県初の外国クルーズ船が寄港した。これを契機として、令和5年には13隻の外国クルーズ船が寄港するなど、当エリアのさらなる交流拠点としての重要度も増している。

一方、西ノ浜地区は、唐津城の膝元に広がる白砂青松の海浜として、県内でも代表的な海水浴場の一つであり、古くより海水浴や潮干狩りなど市民の憩いの場所として多くの人々に利用されてきた。近年はシーカヤックやSUPなど利用の幅に広がりが見られ、佐賀県観光の「海の玄関口」としてポテンシャルを高めつつあるが、日常的に人が集う空間とまでは至っておらず、更なるブランディングが求められている。

今回の事業により、エリア全体のさらなる賑わい創出のため、東港地区と西ノ浜地区が担う役割や配置する機能を整理し、一体的に整備することで、県民のみならず、広く県外・海外から人を招く仕掛けを付加し、観光・交流の機能がさらに拡充され、地域経済やブランド力の向上を図る。

(2) 事業概要

○計画地：重要港湾唐津港(東港地区、西ノ浜地区)

○期 間：R6～R10年度(5年間)

○事業費：660,000千円

(位置図)



【東港地区】

○内 容：幅広い世代が集う空間として整備

東港地区は幅広い世代の来訪者が集い、交流する空間として整備する。
既設の芝生広場を基盤として、海沿いの景観及びフェリーターミナルに隣接しているロケーションを最大限に活用し、民間主導で、旅行者及び地域住民が集まり、憩い、交流するための機能の配置を図る。

また、近隣のスポーツができる環境（マリンスポーツ、スケートボード、ラグビー場）との関係を活かし、日常的にアーバン（都市型）スポーツなどを自由を楽しむことができる場所として整備する。

○対象面積

$$A=50,000 \text{ m}^2$$

（位置図、整備イメージ）



【西ノ浜地区】

○内 容： 非日常感を味わえる開放的な空間として整備

西ノ浜地区は、これまで唐津になかったリゾート感、非日常感を味わえる開放的な空間として整備する。

マリンアクティビティを楽しむだけではなく、海に入らずとも気楽に来て、ゆっくりと過ごすことができる空間を演出するため、一部を芝生化し、遊歩道・トイレ・シャワー、アクティビティコンテンツ等を整備する。

また、現在、十分に活用できていないエリアを民間参入エリアとして整備し、民間投資を活用しながら、将来的にグランピングなどを楽しむことができるスポットとする。

○対象面積

A=40,000 m²

(位置図、整備イメージ)



2 事業主体

佐賀県

3 事業の実施スケジュール

実施事業	R6 年度	R7 年度	R8 年度	R9 年度	R10 年度
唐津キャッスルベイ（東港地区、西ノ浜地区）沿いの魅力創出事業					
	環境調査	基本・実施設計			
	整備				

4 充当しようとする交付金の年度別交付対象経費及び年度別交付金額

(1) 内容 唐津キャッスルベイ（東港地区・西ノ浜地区）沿いの魅力創出事業

(2) 総事業費（交付金対象事業費） 660,000 千円

(3) 事業費（交付金充当額） 660,000 千円

（単位：百万円）

実施事業		R 6	R 7	R 8	R 9	R10	計
施設整備費	交付対象経費	13.0	73.0	84.0	247.0	243.0	660.0
	交付金充当額	13.0	73.0	84.0	247.0	243.0	660.0

5 上記交付金以外の国の財源を充当する場合には、当該財源の内容及び金額

なし

6 事業の実施により整備された施設等の維持・運営主体、維持・運営方法及び維持・運営にかかる自治体の負担額

(1) 施設等の維持・運営主体及び方法

佐賀県

(2) 自治体の負担額

県港湾海岸の維持管理の中で佐賀県が負担する。（指定管理者制度などによる民間事業者主体の運営を検討）

7 地域振興計画に掲げる事業が原子力発電施設の長期的な運転の円滑化に資する理由

玄海原子力発電所が立地する東松浦郡玄海町と隣接する唐津市が今後とも発展していくためには、社会経済の成長や安全・安心な生活の確保が不可欠であるが、当該地域は人口減少や高齢化の急速な進行という課題に直面している。これを解決するためには、交流人口を着実に拡大させ、地域経済を好転させる必要がある。

唐津キャスルベイの整備は、観光・交流の機能のさらなる拡充、地域経済やブランド力の向上により地域の活性化に寄与することにより、原子力発電施設の長期的な運転の円滑化に資するものである。

8 地方自治体で作成される長期的な地域振興計画との関係

県では、「人を大切に、世界に誇れる佐賀づくり」を基本理念とした施策方針を令和5年度に策定した。この中で、佐賀の目指す8つの未来の姿の一つである「「交わろう！」動き出す 人とモノをつなぐネットワーク」では、「唐津港の利活用促進」として交流人口の増加の取り組みを進めている。

「佐賀県施策方針 2023」（令和5年度～8年度）

2 8つの未来の姿に向けた施策

「交わろう！」動き出す 人とモノをつなぐネットワーク

（1）交通

⑥ 唐津港・伊万里港等の利活用促進

また、平成17年度に改訂した唐津港港湾計画書において、多様な機能が調和し、連携する質の高い港湾空間を形成するために港湾環境の整備を計画している。西ノ浜地区においては、利用者の利便性の向上や広場の確保等、海洋性レクリエーションの拠点を形成することとし、東港地区においては、唐津の重厚な歴史性と貴重な自然景観を背景とした憩いと賑わいのある水辺空間を形成することとしている。

「唐津港港湾計画書」

IV 港湾の環境の整備及び保全

1 港湾環境整備施設計画

西ノ浜地区 緑地 4ha

唐津市では、「市民力・地域力によるまちづくり」を基本理念のもと、「海と緑にかこまれたこちよい唐津」を将来都市像として掲げ、まちづくりを進めている。この中で将来都市像を実現するため、「人、物、文化の交流拠点としての港湾の整備」を基本施

策に掲げ、「みなとオアシス」を活用した地域住民の交流促進や地域の魅力向上につながる取り組みを進めている。

「第2次唐津市総合計画」（平成27年度～令和6年度）

第1章 唐津市の根幹となるべき施策

基本目標5 歴史と文化が輝く観光のまちづくり

基本施策5 人、物、文化の交流拠点としての港湾の整備

以上のことから、地域振興計画は、いずれの計画の趣旨にも合致しており、この取り組みを推進するものである。

9 他の類似事業との比較

当該事業の実施に当たっては、本県が通常行う事業と同じ基準（土木工事標準積算基準書・共通仕様書、公共工事に伴う損失補償基準ほか）等に従って実施する。

10 地域振興計画に対する事業地域の住民の要望及び意見

先に記載した通り「佐賀県施策方針2023」に位置付けられていることや、「第2次唐津市総合計画」でも施策の一つとして「人、物、文化の交流拠点としての港湾の整備」を掲げ、唐津キャッスルベイの整備推進により、地域住民や来訪者の憩いや交流の場となり地域に賑わいを創出するとしており、市民の関心も非常に高く早期の事業整備が望まれている。

11 地域振興計画の事業地域の住民への公開及び周知方法

県ホームページおよび県広報誌等で公表するとともに、設計・施工にあたっては地域の声を聞きながら進めていくこととしている。

12 地方自治体及び事業地域の住民の協力・支援体制

唐津港の整備については、平成16年6月に、地元地域が主体となって唐津港の将来像について議論するために設立された「唐津みなとまちづくり懇話会」が取りまとめた唐津港の将来像を描いたランドデザインを基に整備を進めており、引き続き意見交換を進めながら整備を行うこととしており、今後も地元等の協力・支援体制は継続される。

13 地域振興計画の期待される効果

本計画の実施により、観光客が唐津港（東港地区、西ノ浜地区）へ足を運ぶきっかけとなり、マリンアクティビティなど唐津の地域資源を活かした観光を楽しむといった波及効果が見込まれる。唐津港が交流・観光の拠点となることで、観光客による直接消費

だけでなく宿泊、飲食、観光等の関連産業の需要へつながる経済的波及効果や多様な活動に伴う地域のブランド力向上などの社会的波及効果などが期待できる。

○東港地区における効果

東港地区では、唐津港まつり「海のカーニバル in からつ」や全日本ラリー選手権、唐津みなと松原植樹祭、最近では唐津スケートボード選手権等が開催されており、概ね25,000～30,000人程度の参加があっている。

今回の整備により、活用の幅が広がることで、イベント時及び日常のさらなる賑わい創出や観光客の増加が期待される。また、クルーズ船寄港時の乗客の滞在・利用促進も期待される。

○西ノ浜地区における効果

西ノ浜地区は、唐津城の膝元に広がる、県内でも代表的な海水浴場の一つであり、主に市民の憩いの場として利用されてきた。近年は、シーカヤックやSUPをはじめとしたマリンスポーツの利用など、利用の幅に広がりが見られている。

今回の整備により、唐津に今までにない非日常感を味わえる開放的な空間が生まれ、既存のマリンスポーツ利用等と組み合わせることで、県外さらには海外からの観光客の増加が期待される。

